

私にとって、座禅は写経とともに絵を描く事に必要なルーティンです。むしろ絵を描く事すら、心眼を開き、悟り、阿頼耶識に辿り着く修行の一つかもしれません。

ただ、私は、座禅、写経を誰にも強要したことはありません。それは、今後も同様です。私にとって、座禅、写経等は、絵を描くに必要なことで、それ以下でもそれ以上でもありません。

このような厳しい事は己の強い意志でしなければ、無意味なことだからです。私のことが、社会的に知られるようになり、「超人、常人では無い」と皆様が語られますが、業をしている私にとっては、ごく普通のことに過ぎません。私の師の言葉ですが、「修行が終われば、自由時間がある。そこで、その時間を座禅等の時間か、娯楽に使うかで差がついてくる。」と、今の私は十分それが理解できます。そして、多くの方が、私を天才と評価いたしますが、その天才も、その限界を超えるにはより、驕ることなく、人並み以上の修練が必要だと私は思います。ただ、これは私の考えで、誰にも強要は致しません。

言葉足らずかも知れませんがご容赦ください。

柿本英雄〈道号法眼〉